ダメイコさんのそんな日常

Ａｒｃ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ダメイコさんのそんな日常

【Ｎコード】
Ｎ２２６２Ｕ

【作者名】
Ａｒｃ

【あらすじ】
説明しよう！
ダメイコさんの日常とは、「いつもいつもＫＡＩＴＯばかりがボケキャラやってＭＥＩＫＯがそれにツッコミいれてるけど、その逆があったって良いよな！むしろ何故今まで無かったんだ！！」という作者の突拍子も無い思い付きから始まった、４コマ漫画風のんびりまったり系ＶＯＣＡＬＯＩＤギャグ（？）小説（？）である！！４コマ漫画風を意識している為、地の文が存在しないので「小説が読みたいんだ！」という方はご注意を！

説明せねばなるまい！！
ダメイコさんとは、のんべえでぐうたらで『ダメ』な『メイコさん』の略である！多くのＶＯＣＡＬＯＩＤファンの抱く『ＭＥＩＫＯ』のイメージを蹴っ飛ばす為に作者が思いついた勝手な設定なので、この物語を見る時はそれをゆめゆめお忘れなきよう！！
説明するしかないであろう！！！！
作者がこの物語を最初に考え付いた時は２０１１年の１月！つまり冬！！季節感がまるでマッチングしない物語なので、お寒ーいギャグが飛んできた時よろしく心の中を冬にしてご覧あれ！！
※注意！
『ダメイコさんの日常』は、同じ作者（Ａｒｃ）の別の小説、『ぼーかろいど☆ぱにっく！！』内で書いていた内容を移設したものです。その為同じ内容の文章が掲載されていますが、これは作者であるＡｒｃ本人の意思によるものであり、盗作ではありません。多重投稿を避ける為に、『ぼーかろいど☆ぱにっく！！』内に掲載されている方の『ダメイコさんの日常』は誠に勝手ながら削除させていただきます。

#1ダメイコさん現る

KAITO
「――『ダメイコ』ッ！！今日と言う今日は絶対に許さん！！」

MEIKO
「言ったわね『バカイト』！！あたしと殺(ゃ)り合おうだなんて良い度胸してるじゃない！？」

ミク
「うえ～～ん！お兄ちゃ～ん、お姉ちゃ～ん！！」

ルカ
「……はあ。またですか（カタカタ）」

リン
「……何があったの？」

レン
「俺が知るかよ……」

――ダメイコさんのそんな日常――

#1『ダメイコさん現る』

1.

――話は数分前に遡る。

KAITO
「あれー？MEIKOー。冷蔵庫にあった俺のアイス知らないー？」

ダメイコさん
「知らにゃーい。ぺろぺろ」

2.

KAITO
「……あーーーッッ！！今舐めてるそれ間違いなく俺のだろーーーっ！！
返せよ、折角今日のお楽しみにとっといた奴なのに！！」

ダメイコさん
「そんなに熱くならないでよー。今返すからさー」

3.

KAITO
「全く……、ってうわあ！！酒くさっ！！なんかアイスがめちゃくちゃ酒臭いんだけどっ！？」

4.

ダメイコさん
「ごめんごめん、あたしの口の中で菌が繁殖したみたい」

KAITO
「お前の身体は梅雨場の冷蔵庫か！？」

#2『ダメイコさんは大変なものを（ｒｙ』

#2『ダメイコさんは大変なものを（ｒｙ』

1.

ダメイコさん

「何よー。今回『も』ちゃんと返したじゃなーい！ありがたいと思わない訳ー！？」

ＫＡＩＴＯ

「人のものを勝手に食べといて言う台詞じゃないよね！？っていうか前回も前々回も返さなかっただろうが！」

2.

ダメイコさん

「はいダウトーー！！前回も前々回もちゃんと後で返しましたわよこの嘘つきＫＡＩＴＯ！！

嘘ついたら鼻が伸びるんだからねー！！伸びろ伸びろー！！縦に伸びろーー！！」

ＫＡＩＴＯ

「はあ！？それ絶対嘘だろ！ていうか小学生かお前は！！伸びる訳無いだろ！！」

3.

ダメイコ

「ふふーん！嘘だと思うならリンとレンに聞いてみると良いわ、真実を明らかにしたいならね！」

ＫＡＩＴＯ

「……え？なんであの二人に？」

4.

ダメイコさん

「前回はリンのケーキでー、前々回はレンのポテチでー」

ＫＡＩＴＯ

「節操無しかお前は」

#3『ダメイコさんぺろぺろ』

1.
KAITO
「良いからアイス返せよ！」

ダメイコさん
「えー。これじゃ駄目ー？」

2.
KAITO
「駄目だって言ってるだろ！ちゃんと新しいの買って来いよ！」

3.
ダメイコ
「しょうがないなー。ほれちこうよれ、この手をお舐め」

KAITO
「（げっそり）……一応聞いてやる。何故だ」

4.

ダメイコさん
「ほーら、アイスのエキスが身体から噴出してるでしょー？」
ＫＡＩＴＯ
「してねえよ」

※小説本文は２００文字以上必要みたいなんで、適当に作者からのメッセージをぺたり。
カイメイは俺のジャスティス！！

＃４『ダメイコさんの大親友』

＃４『ダメイコさんの大親友』

1.
ダメイコさん
「だって外寒いしー、こたつの中あったかいしー。動きたくなーい」
ＫＡＩＴＯ
「……はあ。だからこたつなんて出したくなかったんだよ、こんなナマケモノ生産装置」

2.
ダメイコさん
「むむ！あたしの事はさておき、大親友おこたんの悪口とは聞き捨てなりませんな！」
ＫＡＩＴＯ
「自分がナマケモノ扱いされるのは良いんだ……。
っていうか親友って。それも大親友って。どんだけこたつと仲良しなんだよ冬場しか出さないのにこたつ」

3.
ダメイコさん

「まあでも付き合い長いから分かるんだけど、おこたんにも苦手分野とかあるのよねー」

ＫＡＩＴＯ
「……？何それ」

４．
ダメイコさん
「熱燗が何時まで経っても温まらない。中に入れといてもさっぱりなのよ」

ＫＡＩＴＯ
「キッチンにくらい出向けよ」

#5『ダメイコさんの裏切り』

#5『ダメイコさんの裏切り』

1.
KAITO
「話が逸れたけど。ちゃんとアイスは買ってきてよね？」

ダメイコさん
「えー。めんどっちー」

2.
KAITO
「（怒りに身を震わせながら）へえ……おこたんがどうなっても良いんだ？（こたつのコンセントを握る）」

3.
ダメイコさん
「お待ちになって！！それやられるとあたしが凍死しちゃう！！」

KAITO
「……おこたんの事はどうでも良いの？」

4.

ダメイコさん
「何言ってるのよこんな夏場は暑苦しくてやってられないただの暖房器具」
ＫＡＩＴＯ
「おこたんの事はどうでも良いのか」

#6『動かざる事ダメイコさんのごとし』

#6『動かざる事ダメイコさんのごとし』

1.
ダメイコさん
「わかったわよー、ルカに連絡しとくわ」

ＫＡＩＴＯ
「早々と自分で出歩く選択肢を放棄しやがった。だめだこいつ早くなんとかしないと」

2.
ダメイコさん
「あーもしもしルカー？悪いんだけど買い物頼まれてくんなーい？」

ＫＡＩＴＯ
「何の迷いも無くケータイに手ぇ延ばしやがった。だめだこいつどうにもならない」

3.
ＫＡＩＴＯ
「（諦め口調で）……何？帰り道に買って来て貰うとか？」

ダメイコさん
「何言ってんのよー、こんな一秒でも早くおうちに帰りたいような寒い日に出歩かせる訳無いじゃないの」

ＫＡＩＴＯ
「？」

４．
ダメイコさん
「あの子ネット詳しいからｃｏｎｏｚ○ｍａっていうサイトから送って貰おうかと」

ＫＡＩＴＯ
「問題ですそのアイスが僕の口に届くまでに一体どれだけの手間と時間が掛かるでしょうか」

#7『ダジャレ＝ダ＝メイコさん（１５４３～）』

#7『ダジャレ＝ダ＝メイコさん（１５４３～）』

1.
ミク
（あれ……お姉ちゃんとお兄ちゃんだ。何してるのかな？）

ダメイコさん
「大体この寒空の下人様を脚に使って物事解決しようってのが間違ってるのよそもそも人間の活動出来る気温は」

ＫＡＩＴＯ
「はいはいそうですね分かります分かります僕達ＶＯＣＡＬＯＩＤにその理屈は通用しませんよねだから僕のアイスを」

2.
ミク
「お姉ちゃん？どうかしたの？」

ダメイコさん
「おお！丁度良い所に来たわねミクちゃん！！」

ＫＡＩＴＯ

「ちょっ、まさかミクを買い物に行かせる気か！？」

3.

ミク

「わ……何するのお姉ちゃん、くすぐったいよ」

ダメイコさん

「可愛い妹にそんな事させる訳無いでしょー全くＫＡＩＴＯったらバカイトなんだから。はいはい動かないでねー」

ＫＡＩＴＯ

「バカ呼ばわり止めろ……。で、ミクに何させるつもりなんだよ？」

4.

ダメイコさん

「（ミクの胸を後ろから掴んで）分からない？……ゆきミだいふク（満面の笑み）」

ミク

（ぼんっ）

ＫＡＩＴＯ

（ひやり）

#8『ダメイコさんは大きなお姉ちゃん』

#8『ダメイコさんは大きなお姉ちゃん』

1.
KAITO
「ミクに何やらせてんだよっ！！」

ダメイコさん
「何よー！！人が上手い事言ってるんだから笑いなさいよねー！！」

ミク
（おろおろ）

2.
ミク
「あ、あの、お兄ちゃん……わ、私全然気にしてないから……」

KAITO
「止めないでミク！刺し違えてでもこいつは僕が（混乱中）」

3.
ダメイコさん
「あら。ミクのじゃ小さかったかしら？（自分の胸を持ち上げる）」

ＫＡＩＴＯ＆ミク
「「……、」」

４．

ミク
「うえ～～ん！！」

ＫＡＩＴＯ
「……ミクに謝れ！デコ磨り減るくらい床に顔押し付けて！！」

ダメイコさん
「あたしがこんなにおっきいんだから、その内大きくなるわよー（棒読み）」

#9『ダメイコさん>ルカ>ミク>超えられない壁>リン』

#9『ダメイコさん>ルカ>ミク>超えられない壁>リン』

1.

――そして冒頭。

リン
「とりあえず事情聞いてみる？」

レン
「だな……」

2.

レン
「ミク姉、何があったんだ？」

ミク
「ひっく、ひっく、うえ～～ん！！」

リン
「泣いてちゃ何も分からないよ……どうしたの？」

3.

ミク
「（自分の胸を持ち上げ）おっぱい……」

4.

リン
「おおおおおおまおまおまお前いくら姉だからってそりゃやって良い事とやっちゃいけない事があるだろうがええあてつけかおい上等」

ルカ
「はいはい負け犬の遠吠えは見苦しいですわよ（リンを押さえつける）」

レン
「みっ、ミク姉ーーーーーッッ！！（赤面）」

ミク
（ビクっ！！）

#１０『ダメイコさんの提案』

#１０『ダメイコさんの提案』

1.
レン
「……要はアレだな。ＭＥＩＫＯ姉が自分のお、……おっぱいを見せびらかしたと（赤面）」

ミク
（こくこく）（頷く）

ルカ
（赤くならなくてもよろしいのでは）

2.
レン
「ＭＥＩＫＯ姉ー、ミク姉が泣いてるんだからとりあえず謝ったら？」

ダメイコさん
「だったら皆に採点してもらおうじゃないの！！」

レン

「――ってまるで聞いてねえなオイ」

3.

ダメイコさん

「誰のおっぱいが一番優秀であるのかを！！」

4.

皆

（はぁーーーーーっ！！？？）

#11『盛り上がるダメイコさん』

#11『盛り上がるダメイコさん』

1.
レン
「……待て、何故そうなる？」

KAITO
「……レン。あの人の行動に何故と問い始めたらきりが無いから止めておいた方が良いよ」

2.
ダメイコさん
「ふっふっふ、かねてより思案していたあの計画をついに実行に移す時が来たのね」

レン
「なんか一人で盛り上がってるんでけど……」

KAITO
「見ちゃ駄目だレン、目が腐る」

3.

ダメイコさん
「よーし！今日こそは思い知らせてやるわ！誰がＶＯＣＡＬＯＩＤイチのおっぱいキャラであるのかをね！！」

レン
「お……（赤面）」

ＫＡＩＴＯ
「はいはい、で、その脂肪分の塊を誰に見せびらかす気なの？」

４．
ダメイコさん
「ネルにー、ハクにー、テトにー、ルコにー、アクにー、メテにー、イクにー、ニクにー」

ＫＡＩＴＯ
「何人呼ぶ気だよ！まさか亜種全員か！？」

#12『ダメイコさんでっか！？』

#12『ダメイコさんでっか！？』

1.

ダメイコさん

「とまあ冗談はさておいて。さてさて」

レン

「冗談だったのか……良かった」

KAITO

「いや、途中まで絶対本気だっただろ今の顔は」

2.

ダメイコさん

「ずばり！君達の一体何が圧倒的に絶対的に足りていないのでしょう！？（ずびし！と人差し指を向ける）」

リン

「へえー、いくら長女とはいえあたし達二人を同時に敵に回すなんて見上げた根性してるじゃない（ぱきぱき）」

ミク

「や、止めようよ二人とも……」

3.

リン

「ミク姉は悔しくないの！？それともあたしよりは上とか抜かすつもり！？」

ミク

「そっ、そうじゃないけど……でも、でもっ」

4.

ミク

「胸の大きい人は馬鹿が多いってホン〇でっかＴＶで」

リン

「何気にミク姉も言う時は言うよね」

#13『変人ダメイコさん』

#13『変人ダメイコさん』

1.
ダメイコさん
「今のは聞き捨てならないわねー。あたしが馬鹿だとでも言うつもりー？」

ミク
「そっ、そういう訳じゃなくって！あ、あのそのっ……」

リン
「弱気になるなミク姉、むしろもっと言ってやって！！」

2.
ダメイコさん
「よろしい！では私が馬鹿ではない事をガリ〇オ風に証明してやろうじゃないの！！」

KAITO
「……実に面白い。その自信満々な顔が一秒後に崩壊する事を想像すると実に面白い」

3.

ダメイコさん

「問題です！マスターは何を思ってあたしを『ダメイコ』設定にしたでしょう！？」

4.

「さっぱり分かんねーよ！ってか『ダメイコ』は元からだろうが楽屋裏でしろそういう話は！！」

#14『ダメイコさんのそんな日常』

#14『ダメイコさんのそんな日常』

1.

ダメイコさん

「……ふっ、あたしの完璧なトリックが見破られるとはね」

KAITO

「何がトリックで何処が事件現場で誰が被害者だったのか教えてくれ」

2.

ダメイコさん

「仕方が無いわね。敗者の義務を果たしてアイス買ってくるわよ」

KAITO

「他にも色々やらかしてるけどまあそれで許してやろう」

3.

――二時間後。

ダメイコさん

「ただいま……」

ＫＡＩＴＯ

「……おかえり。随分時間掛かったけどどうしたの？」

４．

ダメイコさん

「いやーどっかに財布落としたみたいでさーめんごめんご」

ＫＡＩＴＯ

「……このダメイコーーーーーッッ！！！！」

#15『ダメイコさんは忙しいのです』（前書き）

#14から時間が少し経過して、1月の終わり頃の話です。

#15『ダメイコさんは忙しいのです』

#15『ダメイコさんは忙しいのです』

1.
ダメイコさん
「さーて、あたしもそろそろ年賀状とか出そっかねー」

KAITO
「遅ッ！！世間では既に成人の日超えてるんだけど！？」

2.
KAITO
「今まで何してたのさ。時間なら十分あったでしょ？」

ダメイコさん
「それがそうでもないのよー。こう見えても結構忙しかったんだから」

KAITO
「こう見えてもって事は自覚あったんだ」

3.
KAITO

「で、なんで忙しかったの？」

ダメイコさん
「ふっふーん、聞いて驚け？」

ＫＡＩＴＯ
（どうせ下らない事なんだろうな…）

４．
ダメイコさん
「Ｎ〇Ｋ紅白歌合戦に出演していたからよ！！」

ＫＡＩＴＯ
「ついその場で思いついた嘘ですねわかります」

#16『童心ダメイコさん』（前書き）

前回の更新から1ヶ月以上経過……
更新遅くてごめんなさい……

#16『童心ダメイコさん』

#16『童心ダメイコさん』

1.
ダメイコさん
「はあー、今年こそは出たかったんだけどなー紅白」

ＫＡＩＴＯ
「はいはい、おこたんから離れない内は一生無理だっていう事を自覚してよね」

2.
ダメイコさん
「そんなの分からないじゃないのー。
科学は日々進化しているのよ？リビングに居ながらテレビ出演なんて事も可能になるかもしれないわよ」

ＫＡＩＴＯ
（あくまで自分からは動かないつもりか）

3.
ＫＡＩＴＯ
「……もしかしたら液晶画面からテレビ局に入り込めるかもよ？」

4.

ダメイコさん

「そっ、その手があっ――！！」

KAITO

「良い歳して冗談だっていう事が理解出来ないのかなこの〇〇（ピー）歳」

#17『ダメイコさん閃く』

#17『ダメイコさん閃く』

1.
ダメイコさん
「決めたわ！かねてより計画していたあのプロジェクトを実行に移しましょうか！」

KAITO
「計画性の感じられない計画だなあ……。あと計画とプロジェクトは同じ意味」

2.
ダメイコさん
「長かったわ……あたしの子供の頃からの夢が、遂に今日叶うのね」

KAITO
（○○（ピー）年前の話だな……）
「……で、そのプロジェクトって何なの？」

3.
ダメイコさん
「あたし達で歌合戦開きましょう！」

4.

KAITO

「……はぁ！！？？」

#18『ダメイコさんの人脈』

#18『ダメイコさんの人脈』

1.
KAITO
「……いやいや待て待て。唐突過ぎる。何を馬鹿な事を――」

ダメイコさん
「よーし、やると言ったからには徹底的にやるんだからね！」

KAITO
「――頼むから人の話を聞いて下さいお願いします」

2.
ダメイコさん
「あーもしもし大家さーん？うん、ちょっとどたばたするかもしれないけどそこんとこよろしくー」

KAITO
（何故この行動力をもっと別の方向に向けられないのだろう）

3.
KAITO

「……色々と突っ込みたい事はあるけど。……白組のメンバーが僕にレンにがくぽに……って、男女比合わないんですけど？」

ダメイコさん
「ふふふ、抜かりは無いわ。そこはそれ、人海戦術にものを言わせようって作戦よ！」

ＫＡＩＴＯ
（……あ、なんとなくオチが読めた）

4.
ダメイコさん
「亜種の皆を連れてくるのよ！今流行り（？）の性転換キャラをね！！」

「なんだまた亜種か……っておい、性転換！！？？」

#19『ダメイコさんの……？』

#19『ダメイコさんの……？』

1.

ダメイコさん

「どうかしたの？今更驚く事でもないでしょ？」

KAITO

「著作権やら版権の類を恐れないその思考回路に驚いてるんだよ。ちょっとは気にして」

2.

ダメイコさん

「細かい事は気にしない気にしない！あんまり小さな事にこだわってるとハゲるわよ～？けらけら」

KAITO

（ムカッ）

3.

KAITO

「……じゃあ次回から『ダメイトさんのそんな日常』にタイトル変えるけど気にしないんだよね？（ホワイトボードとペンを持ちなが

ら）」

4.

ダメイコさん

「ちょっ、それは勘弁してお姉さん食べていけなくなっちゃう！！」

KAITO

「キニシナイキニシナイー。アハハハハ」

#20『ダメイトさんのそんな日常』

#20『ダメイトさんのそんな日常』

1.
ダメイトさん
「へっくし！！」

カイコ
「わ！おっきなくしゃみ～」

2.
カイコ
「どしたの？風邪か何か～？」

ダメイトさん
「いや……」

3.
ダメイトさん
「カゼが、騒がしい……」

4.

カイコ
「あ！冬なのにチョウチョさんが飛んでる～♪きれ～い」
ダメイトさん
「……行かねば、カゼが止む前に（鼻をすすりながら）」

なんか２００文字以上書き込まないと投稿できないらしいんで、ちょっと文章足しておきます。
お目汚しで申し訳ありません……

#21『ダメイコさん』

#21『ダメイコさん』

1.
ダメイコさん
「ふ、不覚だわ……まさか一時とはいえあたしのペースが乱されるなんて」

KAITO
「アハハハハ」

2.
ダメイコさん
「しかし！あたしはまだ歌合戦を諦めた訳ではないのよ！！」

KAITO
「またそんな事を……どうしてなのさ？」

3.
ダメイコさん
「……KAITOはさ。出たくないの？」

4.

KAITO
「……、」

例にもよって文字数の制限に引っ掛かるので、文章を付け足しておきます。
いつかこの小説（？）が漫画化される日は来るのでしょうか。
残念ながら絵を描くスキルは私にはありませんので、きっと遠い未来かはたまた来世の出来事なのか。
お目汚し失礼致しました。

#22『めーちゃん』

#22『めーちゃん』

1.
KAITO
「……そうだね。新年だし、そういうイベント事があっても面白いかもね。……うん！やると決めたらとことんまでやろう！」

ダメイコさん
「……え？え、ちょ、ちょっと……」

2.
KAITO
「歌合戦、やりたいんでしょ？だったらやろうよめーちゃん！」

3.
ダメイコさん？
「KAITO……。そう、……そうね」

4.
ダメイコさん？
「よーっし！張り切っていくわよーーー！！」

KAITO

「おおーーーーっ！！！！」

#23『一方その頃』

#23『一方その頃』

1.

（携帯の着信音）

レン

「あ、カイ兄からメールだ」

リン

「ん、ホントだ」

2.

レン

「なになに……新春『歌』合戦、勝者には豪華景品のチャンスぅ？

……あ」

リン

「……！！」

3.

レン

「……そうピリピリすんなよ」

４．

「別にピリピリなんて……。……、」

文字数制限引っ掛かっちゃいました。２００文字以上にしないといけないので、ちょっと文章足しておきます。
ちゃんと地の文を書いたら２００文字なんてあっという間なんでしょうけど、この作品はこういうテイストでお送りしたいので敢えてつけません。っていうかめんｄ（ｒｙ

#２４『ダメイコさんが小一時間でやってくれました』

#２４『ダメイコさんが小一時間でやってくれました』

１.

――カラオケボックス

ダメイコさん

「皆ー、盛り上がってるーーー！？」

ＫＡＩＴＯ・ミク

「いえーい！！」

２.

ダメイコさん

「さぁーて、今日は力の限り歌い尽くすわよーーー！！」

ミク

「わぁぁ……なんだかとっても楽しそう！！」

３.

ダメイコさん

「ふふん。喜んでくれたら作った甲斐があるってもんだわ」

レン
「中々凝った造りしてんだな。結構時間掛かったんじゃねえの？」

4.

ダメイコさん
「あら。こんなの余裕よ？気合入れてやれば一時間ちょい」

レン
「……どうしてその気合をもっと他の場所に回せないんだろう」

#25『ダメイコさん（大人）の事情』

#25『ダメイコさん（大人）の事情』

1.

ダメイコさん

「じゃあ適当に順番回していきますかー」

レン

「あれっ。普通は年長か年少から順番じゃねえの？」

ダメイコさん

「順番なんてどうでも良いでしょー？さあさあ採点開始っと」

2.

ミク

「え、えと。そ、それじゃ一番目、ミク歌いまーす！！」

ＫＡＩＴＯ

「待ってましたー！！」

ダメイコ

「良いよ良いよー！！」

3.

ミク

「――――――（大人の事情）♪」

がっしゃーん（全員がコケる音）

4.

ミク

「……あ、あれっ！？あれっ！！？？」

ダメイコさん

「ちょっ、ちょっとどうなってんのコレーーー！！？？」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2262u/

ダメイコさんのそんな日常

2011年10月28日02時10分発行